



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

# MMS NEWS

2024 2 月号  
Vol.156  
毎月1回発行(通巻156号)  
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 http://www.jmmpa.jp/

## 令和6年新春特別講演会

# 聖路加国際病院の海道利実氏が登壇 改革を進めるために必要なものとは

一般社団法人日本医療経営実践協会は、2月1日(木)より令和6年新春特別講演会の配信をスタートした。講師を務めるのは聖路加国際病院消化器・一般外科部長の海道利実氏。本講演は2月29日(木)まで会員限定で配信中、3月より一般公開される。

### 多彩な登壇者が魅力の 新春特別講演会

今回で12回目となる新春特別講演会(2020年までは「新春講演会」)。これまでに医師や病院経営者に加え、作家や文化人、宗教家等、医療界の内外から講師を招き、一般的な医療経営に関するセミナーとは一線を画した内容で、医療経営士の視野を広げ、人間力を高めるようなお話を伺ってきた。

コロナ禍を経て2021年からはオンライン開催となり、昨年は看護師で僧侶の玉置妙慶氏による「医療・福祉の人間力」スピリチュアルケアとは?」を配信。スピリチュアルケアの神髄について解説いただき、多くの方に視聴いただいた。

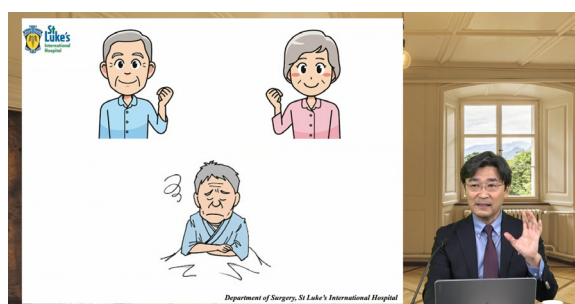
第一人者でもある。その実績はまさに医療経営士のめざすところであり、海道氏の講演を待ち望んでいたという方も少なくなかったのではないだろうか。本講演では、臍頭十二指腸切除術において早期退院を実現するために、術後10日以内の自宅退院を目標アウトカムとしたクリニカルパスを作成し、その妥当性を検証。阻害要因を列挙したうえで一つひとつ解決していった事例など、海道氏のこれまでの経験を余すところなく語っていただいております、まさに必見の内容と言えるだろう。

### 今年講師として聖路加 国際病院消化器・一般外科 部長の海道利実氏を招へ い、「医療人における「仕 事力と人間力」と題し、 医療経営士へ向け、力強い メッセージを送っていただ いている。

仕事力×人間力で  
人としての幅を広げよう

海道氏はこれまでに医療の現場でドラッカーのマーケティングとイノベーションの理論を実践、肝移植手術成績の向上や日本一短い術後在院日数などを実現してきた。医師としての華々しい経歴に加え、部下のモチベーション向上や成功体験の重要性を説き、人材育成や組織変革にも積極的に取り組まれるなど、医療分野におけるマネジメントの

しても、それだけで人を動かすことはできない。「あの人が言うならやってみよう」と思ってもらい、組織全体を動かせる人材になるためには、教養を身に付け、人としての幅を広げることも必要となる。本講演のテーマである「仕事力と人間力」を兼ね備えることが、業務を推進するためには不可欠といえるだろう。忙しい時期だからこそ、ぜひ時間を見つけて海道氏の講演に耳を傾けていただきたい。



軽妙な語り口で最後まで飽きさせない海道氏の講演

一般社団法人日本医療経営実践協会 主催

## 医療人における “仕事力と人間力”

かいとうとしみ  
講師 海道利実 先生

参加費 医療経営士(会員)……無料

医療経営士の皆様には視聴用アドレスを  
送付します

令和6年  
新春特別  
講演会



会員限定公開

2024 2月1日(木)~2月29日(木)

※3月1日より一般公開

WEBオンデマンド配信

かいとう・としみ ●学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院 消化器・一般外科部長/医学博士。1963年福井市生まれ。1981年福井県立藤島高等学校卒業。1987年京都大学医学部卒業後、京都大学外科学教室入局。1996年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。1999年京都大学腫瘍外科助手。2001年大津市民病院外科医長。2009年京都大学肝胆膵移植外科・臓器移植医療部准教授。2019年10月より現職。主な著書に『仕事力は人間力〜聖路加国際病院外科部長からの12のメッセージ〜』(へるす出版)、『もし大病院の外科医がビジネス書を読んだら〜仕事や人生が楽しくなる“深い話”〜』(中外医学社)など。

# 地元根付いたネットワークを活かし 復興に向けて地域医療の根幹を支える

石川県金沢市に本社を置き、北陸3県で圧倒的なシェアを誇る医薬品卸事業を軸に、多角的な事業展開を行っている明祥株式会社。

1月1日に発生した能登半島地震では、石川県より衛生用品等の物資支援の要請を受け、穴水町や輪島市といった被害の大きかった市町へも救援物資を届ける役割を果たしました。北陸事業部部長の虎谷智則氏と、医療経営士3級で仕入・営業推進部部長を務める瀬川博司氏にお話を伺いました。(2024年2月7日取材)

## 自治体からの要請に即座に対応 使命感を持って支援に当たる

北陸事業部の部長を務める虎谷智則氏。以前から自治体との業務を通して信頼関係を構築していたこともあり、震災が発生した1日には石川県から「何かあるかまだわからないが、協力をお願いすることになるかもしれない」と連絡が入ったそうです。会社として早々に対応できる体制を整える必要があり、翌2日の朝には社内に対策本部が設置されました。「2日の朝に会社集まり、まずは全支店長とリモート体制を取って社員と社屋の被害確認を行いました。その後、すぐに県庁に向かい、医薬品の供給について緊急要請が出されている医療機関の確認を行いました。そこで4つの病院から要請が出ていることを確認し、『今日中に対応できないか』という要請を受けました。正月休みでしたので社内のパソコンやシステムはまだ通常運用ができていない状態でしたが、皆で協力しながら、速やかに商品を手配することができました」(虎谷氏)。

しかし、商品を確認し要請のあった4病院へ緊急車両で向かったものの、その日のうちに届けることができたのは2病院だったと言います。得意先や県から要望のあった商品の手配を担当する仕入・営業推進部部長を務める瀬川博司氏は、「ただでさえ震災の影響で道路状況が悪いうえに、大雨で土砂崩れの危険もあり、緊急車両でもストップが掛けられているような状況でした」と振り返ります。「通常であれば2~3時間で届けられるはずが、想定何倍もの時間をかけてもたどり着けないなかで日も沈んでしまい、安全確保の面からも難しいと判断。翌日の早朝に改めて出発し、ようやく届けることができました」(瀬川氏)。

会社としては従業員の命を守ることも最優先です。道路の状況の詳細がわからず安全の確認がないなかで社員を派遣してよいのかという葛藤もあったと言いますが、従業員一人ひとりが「いかなるときも必要な医薬品が必要な場所へ届けなければならない」という使命感で、自分から手を挙げてくれたそうです。

その社員の想いに応えられるよう、会社としてもできる限りの体制を整えたことが、このミッションの達成につながりました。

翌3日には医療機関の状況調査をはじめ、クライアントのドクター等から情報収集を実施。被災状況の確認については会社が有していたネットワークが機能したことで非常にスムーズに進めることができ、県からも「そちらで得た情報を共有させてほしい」という要請があったほどでした。

薬を届ける際には会社に備蓄してあった非常食や救援物資も車に積み、一緒に運んでいました。まだ被災地には支援の手が届いていない状況でもあり、水や簡易トイレ等はニーズが大きく、調達が大変だったそうです。

## 全地域が復興を成し遂げるまで 継続した支援を行うことが使命

震災から1カ月以上が経ちますが医療機関の状況はさまざまです。瀬川氏は、被害が大きかった地域の患者を受け入れている側も厳しくなっていると指摘します。

「商品の供給についてはメーカーの支援もあって対応できているのですが、被害の大きか

った能登エリアの急性期の患者さんを受け入れている金沢・加賀エリアもひっ迫している印象です。急性期後を受け入れる療養のほうも余裕がなくなっているような状況であると感じています」(瀬川氏)。

ただ、そのような状況においても、会社としてやるべきことは変わりません。「県からの要請への対応で他県からも救護班の方が入っていますが、そういった方々が活動しやすいよう迅速な物流支援を行うのが私たちの一番の役割だと思っています。一方で、通常に近づいてきているエリアにおいては、先生方に対しては従来どおりのお取引をできるような体制を整えて対応して参ります」(虎谷氏)。

今年は医師の時間外労働の上限規制や診療報酬改定といった動きもあります。虎谷氏は、「制度面は待たないで動いていきます。私どもも医療経営士という資格を取得させていただいておりますので、関連する情報提供等、それぞれの先生方のニーズをくみ取ってしっかりと対応していかなければならないと思っています」と語ります。

被災した医療機関はもちろん、地域全体の復興へ向け、医療経営士の資格を有する社員の皆さまのさらなる活躍が期待されます。

## 会員の皆さまへのメッセージ



虎谷智則氏

**ま** ずは県民を代表して、全国の皆さまから励ましの声、救援物資、義援金を頂戴しましたことに感謝を申し上げます。

我々も、早く復興して、「あのときは大変だったね」と振り返ることができればと思っています。被災したところに寄り添いながら早く正常に戻れるようにという一心で、引き続き活動を行って参ります。まだまだ支援をお願いしなければならないところもあります。この御恩はいつかお返しできればと皆思っておりますが、何卒よろしく願い申し上げます。



瀬川博司氏

**能** 登半島は非常に魅力的な観光地です。3月には北陸新幹線が福井まで延伸するので、それに向けて観光を盛り上げていこうという矢先の震災でしたので、ショックも大きかったのですが、復興したらぜひ観光にお越しいただきたいと思っています。いい温泉や民宿もたくさんありますし、今後地域の経済を回していくことが重要になってきますので、全国の皆さま、落ち着かれた際にはぜひ能登半島までお越しください。



# 2024年度改定を医療経営士ならではの視点から読み解く



流石氏の熱のこもった解説に参加者も真剣に聞き入る

日本医療経営実践協会関東支部多摩研究会では、2月16日、第2回研究会「2024年度診療報酬改定セミナー」を開催した。会場とオンラインのハイブリッド形式で開催された研究会の様をお伝えする。

## 本体の改定率はプラスも病院としては厳しいものに

関東支部多摩研究会では2月16日、医療機関の経営支援を行う株式会社メデュアクトの流石<sup>さきあき</sup>氏が代表取締役を講師に迎え、2回目となる研究会を八王子で開催した。14日に厚生労働省中央社会保険医療協議会（中医協）で答申が出されたばかりというタイミングもあり会場とオンラインで40名を超える参加者があった。

流石氏は今改定の基本方針、改定率を改めて確認したうえで、最初に「医療従事者の人材確保や賃上げに向けた取組」について解説。「外来・在宅や入院ベ

ースアップ評価料、さらには入院基本料の見直しで点数が上がっているものの、ここは職員の賃上げに相当することになり、それ以外

のところでは下げられているため厳しい改定という印象を持っている」と述べた。

続いて病院の機能ごとのポイントを解説。まず「急性期充実体制加算」が見直されたことに加え、「小児・周産期・精神科充実体制加算が取れないところは真水の減少になる」とし、「ギリギリで要件を満たしていた医療機関にとってはダメージが大きい」と話した。

## 合わせて総合入院体制加算の要件に「同一敷地内薬局がある」と不可が入ったことに注目し、「今後は地域の基幹病院では同一敷地内薬局をやるということはあるのではないか」と見通しを述べた。

急性期については、7対1の急性期一般入院料1の要件が厳しくなったことに言及。「事前に中医協が出していたシミュレーションによれば1割強の病院が引っかかる。内科系で救急を

がんばっていたところは特に厳しくなるのではないかと話した。

## 要件の変更や新設の加算等自院への影響を要確認

回復期では運動器リハビリテーション料の算定について1日上限6単位となったことに言及。また地域包括ケア病棟では施設基準が変わり短期滞在手術料基本料3等の患者を除いたうえで自院一般病棟からの転棟割合が65%未満（200床以上）となったことに注

目し、それぞれ病院によって大きな影響が出る可能性がある」と指摘した。

新設された地域包括医療病棟については、加算も含めベッド単価が4万円強になるのではないかと試算。院内転棟の割合が低く設定

## 救急医療の分野では救急医療管理加算の要件が厳しくなることを取り上げ、特に、対象となる患者のうち「その他の重症な状態」の割合が5割を超える場合の評価が見直されたことを注視。

「『その他の重症な状態』が多い病院は、医事課が頑張っているところが多い傾向がある。これまではそれで取れていた部分が減ることになるので、自院の状況がどうなのかはすぐに確認すべき」と注意を促した。

リハビリテーション・栄養・口腔の分野では、新設された連携体制加算について、「セブピストの要件を満たせる病院にとっては、120点が14日間、全患者を対象に取れるというのはインパクトが大きいのではないかと語った。

その他、外来部門や医薬品関連、DX分野等についても重要項目を解説した流石氏。講義後の質疑応答では会場とオンライン双方から具体的な質問が寄せられるなど、診療報酬改定に向けた注目度の高さがうかがえた。

救急医療の分野では救急医療管理加算の要件が厳しくなることを取り上げ、特に、対象となる患者のうち「その他の重症な状態」の割合が5割を超える場合の評価が見直されたことを注視。「『その他の重症な状態』が多い病院は、医事課が頑張っているところが多い傾向がある。これまではそれで取れていた部分が減ることになるので、自院の状況がどうなのかはすぐに確認すべき」と注意を促した。

## 日本栄養経営実践協会が全国大会開催 自院の管理栄養士とともに参加しよう！

一般社団法人日本栄養経営実践協会（代表理事・宮澤靖／東京医科大学病院栄養管理科科长）は3月9日、「第8回全国栄養経営士のつどいー専門職連携を導く栄養経営士の現場力」を開催する。

特別講演には厚生労働省医政局地域医療計画課室長補佐の須永将広氏が登壇、「第8回医療計画が示す方向性と管理栄養士に求められる役割」について講演を行う。4月からスタートする第8次医療計画においては団塊の世代のすべてが後期高齢者となる2025年、その後の現役世代人口の減少を見据え、マンパワーの確保や効率的な医療提供体制の構築を進めていくための基盤づくりが進むことになる。そのなかで、健康・予防分野と特に関連の深い管理栄養士に求められるものを解説いただく予定だ。

さらに特別座談会では医療経営士2級の佐藤林太郎氏（医療法人岩切病院事務長）が登壇し、栄養経営士と病院経営における栄養部門の役割について議論を行う。入院時食事療養費が約30年ぶりに見直されたが、給食部門は病院経営においても重要なトピックの一つ。医療経営士と栄養経営士の議論のなかから、これからの栄養部門のあり方、病院給食の方向性等が浮かび上がってくるのではないだろうか。

医療経営士の全国大会同様に、栄養経営士による演題発表も「実践報告」の形で行われる。今大会では4名の栄養経営士が登壇。病院、施設、委託給食会社等さまざまな立場からなされる、栄養経営の最前線についての報告は医療経営士にとっても大いに参考になるだろう。

現在、同協会のホームページより参加申し込みを受け付け中だ。栄養部門×経営部門の連携強化に向け、ぜひ自院の管理栄養士とともに参加していただきたい。

### 第8回全国栄養経営士のつどい

日程：3月9日（土）  
会場：UDXカンファレンス RoomD（東京都千代田区）



詳細・参加申し込みは  
こちらから

## 事務局掲示板

1級資格認定者のみに許された特権  
医療経営指導士の制度を活用しよう

当協会では医療経営士1級の方が申請できる「医療経営指導士」の制度を設けています。協会への登録申請により、「医療経営士」「医療経営指導士」の名称を冠した試験対策講座や研究会・講演会の主催が可能となり、事業に伴う収益を得ることも可能。資格要件や申請方法の詳細については当協会ホームページでご確認ください。

「医療経営指導士」制度について

<http://www.jmmpa.jp/support/shidoushi/>

知っておきたい「医学の基礎知識」を  
DVDとテキストで効果的に習得できる  
「医療経営士」基礎力UP講座

当協会では医療経営士として知っておきたい医学の基礎知識を効果的に学べる「基礎力UP講座」を開講しています。テキストとDVDを通して事務職や他職種の方が、医療専門職との連携やコミュニケーションにおいて必要不可欠な医学知識や医療用語を平易かつ効果的に学習できる仕組みになっています。詳細はホームページにてご確認ください。

【医療経営士「基礎力UP講座」】

<http://www.jmmpa.jp/support/tsushin/up/>  
TEL : 03-3553-2906



## TOPICS

懸賞論文「日本医療経営実践賞」案件募集中！  
賞金100万円、応募締切は5月15日(水)

当協会が研究費の助成を行う、「指定課題研究助成」事業を昨年度に引き続き実施します。第7回となる2024年度の研究助成においては、指定課題は休止とし、懸賞論文「日本医療経営実践賞」について広く実践事例や知見を募ります。

「日本医療経営実践賞」については論文形式にこだわらず、事例研究のレポート等も含め、優秀な研究成果について表彰の対象とします。募集対象者は、医療経営士を中心に、医療経営に携わる個人・グループで、医療現場で活躍されている方からの申請を優先します。応募いただいた論文等については有識者による選考委員会(選考委員長:尾形裕也氏(九州大学名誉教授))において審査し、最も優秀なものには「日本医療経営実践賞」と100万円を授与、2024年中の本協会指定の期間において、WEB等による受賞講演を行っていただきます。

応募締切は5月15日(水)、当日消印有効。たくさんのご応募をお待ちしています。

論題・対象テーマ(応募要項より抜粋)

「医療経営に関する実践研究と提言」「日本の医療経営における現場の実態を踏まえたうえで、これからの医療を考え、提言する」という視点から具体的に論題を設定し、実践的な取り組み事例や医療機関経営者、医療従事者・患者等の変容等を論文もしくは事例研究レポート等にまとめること。

【お問い合わせ先】

一般社団法人日本医療経営実践協会「研究助成」事務局  
Tel : 03-3553-2906 E-mail : [mms\\_grant@jmmpa.jp](mailto:mms_grant@jmmpa.jp)

## 日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
3月11日(月)~17日(日) ※オンデマンド	関西	2024年 診療・介護報酬改定の総点検と対策セミナー	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ)
3月15日(金)	北海道	第10回 道北医療経営ネットワークセミナー 「医療経営の視点で地域災害とBCPについて考えよう」	西館 拓 氏(旭川市防災安全部防災課 課長)
3月15日(金)	関東	第49回神奈川研究会 「医療機関における法的リスクー弁護士の活かし方ー」	高田雄大氏(弁護士法人ソシア山本岩永法律事務所)
3月15日(金)	九州	第9回医療経営士沖縄県自主勉強会 「総合職のキャリアについて」ほか	我謝佑斗氏(医療法人おもと会大浜第一病院 統括本部・経営企画部)ほか
3月16日(土)	北陸	摂食嚥下x栄養セミナー&試食会	野村祐介氏(医療法人社団尽誠会 野村病院 理事長)ほか
3月21日(木)	東海	静岡県東部医療経営研究会 「2024年診療報酬改定バトルディスカッション」	※参加者によるディスカッション
3月23日(土)	東海	医療サービスを考えるための「3つの視点」 ～提供している医療サービスをより良くするためのポイント講座～	高森雅人氏(ウェルサイドコンサルティング株式会社 代表取締役)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。



## 月刊医療経営士

特集

医療経営士の  
新たなる希望

3月号  
好評発売中!!

超高齢社会を迎えるわが国において、患者と向き合う医療者の働きをどれだけ安定的かつ効果的なものにするかは、経営に携わるスタッフ次第。医療経営士の出番はこれからが本番です。今号は第一線で活躍する医療経営士の皆様にご登場いただき、「新たなる希望」を語っていただきました。

次代を担う  
医療経営人財を  
サポートする  
「医療経営士応援マガジン」

～医療経営の  
要役として目指すこと

詳細・ご購入は  
コチラ

